

業務パッケージ利用システム開発における要件定義書品質向上の検討と向上方法の提案

NECソリューションイノベータ株式会社

北村 敬祐

kei-kitamura@wh.jp.nec.com

開発における問題点

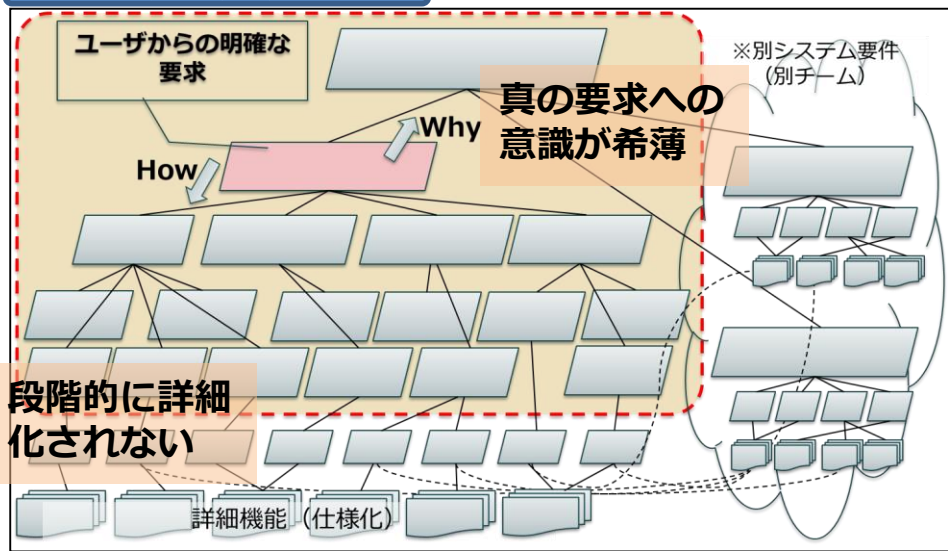
業務パッケージを利用するシステム開発において、顧客の真の要求を把握できず、要件定義工程で多くのバグが作り込まれている。発生原因を調べたところ、要件漏れ・認識の齟齬が原因とするバグの大半を占めていることが分かった。

手法・ツールの適用による解決

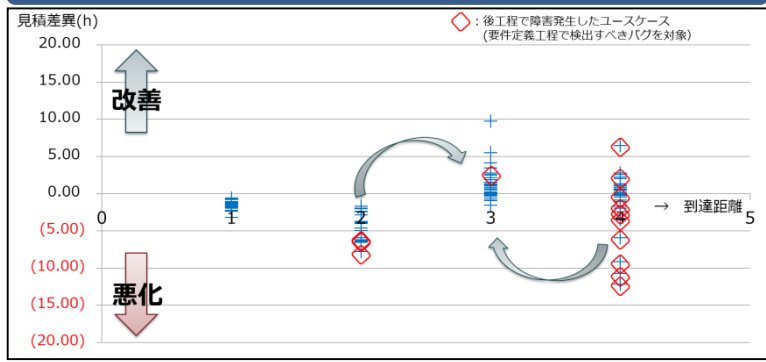
顧客から提示されたRFP(Request for Proposal)と業務パッケージの機能仕様と元に、真の要求からソフトウェア仕様までKAOSゴールモデルで分解することを、要件定義工程の作業に組み入れ、記述の品質を確保するため、ゴール分解の作業のばらつきをなくすようにチェックリストを構築する。

アプローチ

現状分析

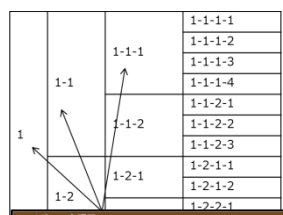
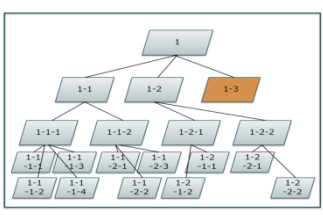
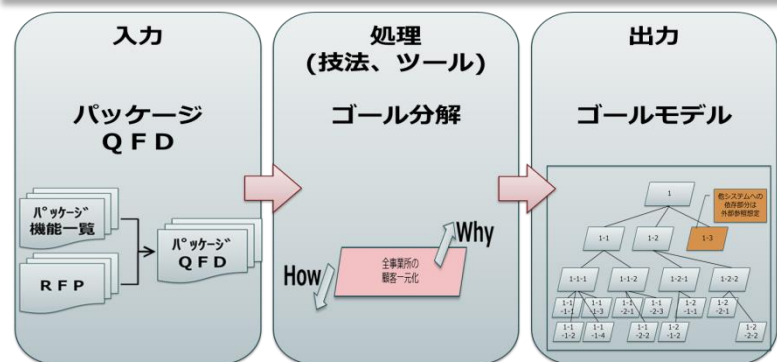


顧客の真の要求から仕様までの到達距離



真の要求への意識の希薄さ、段階的詳細化を実施できていない点が、現在の対応プロセスの工数悪化傾向と関係していると仮説を立て、プロジェクトのマネジメントデータ分析。

提案手法



No.	チェック項目
1	誰（組織、担当者）が要求元であるか明確になっているか？
2	要求の目的は明確になっているか？
3	要求を達成することで得られる効果とヒアリングできているか？
4	担当範囲外（別ベンダや別チーム）にサブゴールが存在するか？
5	要求の優先度はヒアリングできているか？

要件定義書
チェックリストを元に要件定義書準備及び内部レビュー実施

まとめと課題

【総括】

顧客からの要求に対し、真の要求が何であるのか？要求をゴール分解する作業を正しく実施していくことで、要件定義工程で実施すべき範囲のバラつきをなくし、均一な品質の提供、及び見積基準への平準化が可能となる。

【課題】

今回のテーマ検討の中では、効果検証まで実施できていない。自組織の要件定義工程の担当者及び、今後の担当者への展開が課題である。要求をゴール分解する作業を繰り返し、要件定義書の品質を向上するチェックリストを構築する。